



ワシントン日本語学校事務局
HOT LINE (301)962-7415
Phone (301)962-7410
FAX (301)962-7411



はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

授業を変える

校長 三原 洋一

先日、教務補佐の教員から、大変うれしい報告がありました。「今年に入って、授業のめあてが提示されて、ふり返りをきちんと行っている授業が増えています。先生方の授業が変わってきていますよ。」という内容でした。

本校では、研修主任のホール教諭のリーダーシップのもと、教員が、授業について語り合い、よいところをお互いに学び合ったり、授業改善の方策を検討したりし、児童・生徒にとって、分かる・できるなど、意欲的に取り組める授業づくりを研究しています。本年度は、研究テーマとして、『授業づくりの基礎基本を大切にし、子どもたちがともに関わり学び合う授業づくり』を掲げています。



昨年度から、その研究の一つの取組として「めあて」と「学び合い」、「ふり返り」を位置付けた授業づくりを行っています。

○授業の初めに学習課題（めあて）をホワイトボードに提示すること

○1時間の授業の中に児童の学び合い（協働的な学び）の時間を確保すること

○授業の終わりに、今日の学習のふり返りをする

この3つを共通取組事項として研究を進めてきました。



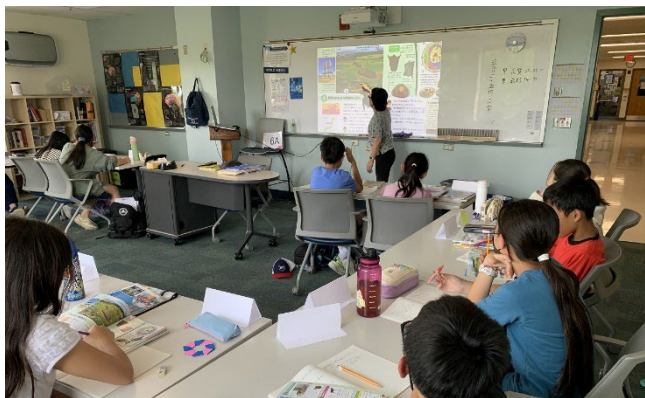
「めあて」は、教師が黒板に示すとともに、子どもたちにはノートに書かせるなどして、その授業で何を学ぶのかをしっかりと意識させるようにしています。教師が一方的に示すのではなく、これまでの学習を復習したり、学習への意欲を高める投げかけをしたりして、子どもたちにとって「やってみたい」「知りたい」「考えたい」ものになるよう心がけています。

「学び合い」は、主体的で協働的で、深い学び（アクティブラーニング）の実践です。一人で学習するだけでなく、二人組や班単

あるいは学級全体で協働した学習活動を行うことで、互いの学びをより深めていくように仕組んでいきます。

「ふり返り」は、単なる感想とならないように、分かったことや考えたこと、新たな疑問などを「めあて」と照らし合わせて振り返るようにしています。この授業で「わかったこと」や「できたこと」を子どもたちが自分で確認し、充実感や達成感をもてるように心がけています。

しかしながら、これらのことを毎時間徹底して実践するのは、なかなか難しいことです。この教務補佐からの報告は、大変うれしいものでした。校長として、本校教員の熱心な取り組みに敬意を表すとともに、今後のさらなる授業改善に大いに期待したいと思います。



教職とは、日々変化する子どもの教育に携わり、一人ひとりの子どもがもつ可能性を引き出す創造的な仕事です。そのため、指導にあたる教員には、時代の変化を先読みし、常に研究と修養に努め、専門性の向上を図ることが求められます。特に、日本国内の公立学校とは違い、補習授業校では、年間41日という限られた授業日数の中でどのような指導を行い、いかに結果を出していくのかが問われていると思います。



これからも、保護者の皆様とも協働しながら、子どもたちの学力向上のためのよりよい授業づくりをめざしてまいります。

生徒会会議 6/8

～全校ピクニックデーを成功させよう

先週も、第3回の生徒会会議が、昼休みを利用して開催されました。生徒会 T シャツを着た生徒会委員が、今日のピクニックで、全校生徒が楽しい時間を過ごせるよう、一生懸命に最終確認をしていました。



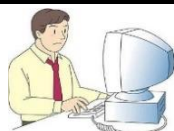
誰でも参加できる！ オンライン海外子女教育セミナー

北米時間：2024年6月23日（日）

- 帰国生受入校の先生方のお話しを**ご自宅**で直接お聞き頂けます。
- 帰国後の志望校を選ぶため、直接先生と話して、学校の雰囲気を知りたい、学校のポリシーを知りたい！
- もちろん、ベストゼミナールの生徒以外の方も参加出来ます。



講演者	開始時間			
	Pacific	Mount	Central	Eastern
帰国子女受入校の選び方 ベストゼミナール	PM 4:30～5:00	PM 5:30～6:00	PM 6:30～9:00	PM 7:30～8:00
渋谷教育学園渋谷中学高等学校	PM 5:10～5:40	PM 6:10～6:40	PM 7:10～7:40	PM 8:10～8:40
広尾学園中学校高等学校	PM 5:50～6:20	PM 6:50～7:20	PM 7:50～8:20	PM 8:50～9:20
中央大学附属杉並高等学校	PM 6:30～7:00	PM 7:30～8:00	PM 8:30～9:00	PM 9:30～10:00



先生



参加方法： Zoomを使用します。
詳細はこちらから



<https://www.fivestartjp.com/school>



主催者：ベストゼミナール

お世話になりました

この度、6 月末日をもって事務局を退職することとなりました。在職中は管理運営委員会の皆様、保護者の皆様、派遣教員・教職員の皆様、事務局の皆様に大変お世話になりました。11 年間仕事を続けられたのも皆様のおかげです。



最初の点/理科と教員 2012 年より代講をしていた私に、2013 年春、突然「小 6 の担任をやってみないか？」と斎藤校長先生から電話が。まだ自信がないため、とりあえず理科の準備をボランティアで手伝うことに。2014 年春、断り切れず小 6 の担任、小 4、小 5 の理科の準備兼任に。が、校長先生が残していかれたであろうマニュアルを探そうと校長先生の PC を確認するも全てが無くなっている！その後は地獄。自分の授業準備はほっておいて、まずは小 4～5 年の理科のマニュアル再作成、理科教材の準備。それからようやく、自分の授業の準備を開始。さらに後任が自己都合退職し、一旦辞めた臨時事務局員も兼任することとなり、3 足のわらじをはくことに。「理科なんて日本語学校に必要あるの？」という嵐の中、ほぼ孤立奮闘。さらに学級崩壊。それでも、理科の授業で輝く生徒の姿や大國先生、中村先生の事前実験のご協力、その後理科を引き継いでいただいたストーン先生に支えられ頑張ることができました。が、コロナ禍を経て 2021 年 SR 校のカフェ改修に伴い理科実験場所を失い、理科終焉。最初の点は消滅。

点と点が線になる/スマートボード、パソコン、連絡 BOX、オンライン授業、そして Google Classroom

2015 年、SR 校移転すると白板がない！白板の前にどんとスマートボードが金具で固定されマーカーで字を書くことができない。パワポがスマートボードに表示されない先生に「どうしてくれるの。私は昨夜寝てないのよ。」とどなられ、思わず「先生大丈夫、僕も昨夜寝てません。」とその場を乗り切った授業日初日。その日から先生方と共にスマートボード、PC との格闘が始まった。デジタル教科書、連絡 BOX を導入し、保護者が自宅で宿題をダウンロードできるように。当初一部の先生の「pdf って何？」「Word なんて使ったことない」「何でやらなきゃいけないの」から、すべての先生方ができるまで 3 年ほどかかりました。

2019 年度末、コロナ来襲。当初、「Zoom って何？」「Zoom は危ない。」「対面ほど効果がないから、オンラインなんてやっても

意味がない。」多くの反対意見が多い中、「オンラインやりますか日本語教育やめますか？」に、さらに総務部 IT 担当の渡辺さん、森校長先生のお力で「Zoom やってみようか。」「とにかくやろう…」に。しかし一番努力されたのは先生方。週末のオンライン授業の為に、先生方で勉強会を開き、オンライン授業向けの教材準備を終えてからも、一人 Zoom という自主練。膨大な時間と労力をかけて、オンライン授業を実現してもらいました。2015 年からのデジタル化はこの日の為にあったのだ！まさに、点と点がつながって線になった瞬間。さらに、総務部 IT 担当の森さん、大塚先生、ホーガン先生らが高等部で始めていた Google Classroom を拡大し、オンライン下での宿題のやり取りもスムーズに。実はこの Google Classroom も一時は、「日本語学校に PC は必要ない」、「まして Google Classroom なんて」、「対面で十分」と皆が反対するなかで、さくらまつりプロジェクトで菊地先生に一人 Google Classroom を使っていたでいたことが幸いした。私が「Google Classroom 便利ですよ」といくらいっても受け入れてもらえなかった中、菊地先生が「Google Classroom 簡単よ。こうして、ああして…」と助け船を出してくださり、IT に明るいホール先生が「じゃーやってみよう」と。ホール先生があれよあれよとスキルアップして、他の先生に刺激を与えてくださり、みんなの先生に使ってもらえるようになった。ある日を境に、風向きは突然変わる。これまで日陰のものが突然光を浴び、さらに大きな流れに。当時、周りに流されて全員が使用をやめていたらこの流れはなかったろう。一つ一つ先生方と積み上げたものが、さらなる線となっていたのです。

面にする/ワシントン日本語学校に思うこと ワシントン日本語学校には、多様な、且つ一流の専門をもつ保護者が多く、学校が危機に陥るたびにヒーローが現れて問題を解決してくれました。私が理科で孤立奮闘しているとき、幼稚園の保護者の方々が自主的に顕微鏡を使った授業を行う姿を見て、コミュニティの強さを実感しました。皆がフラットで当事者として支え、子どもを育む姿に、まだまだやれると確信しました。昨今のサイエンスサロン、マスゼミやみらい共育の運営委員会の皆様、保護者の皆様の活躍、先生方の日々の頑張りをみて、ほっとして、事務局の台を降りる決心がつきました。

今後も日本語学校の発展を期待しています。長い間ご支援いただき、本当にありがとうございました。



四宮 宏